

日本における代理出産

医療法人登誠会 諏訪マタニティークリニック 根津 八紘
2007. 2. 25 (日) スクワール麴町 3F 錦華

はじめに

お話をさせて頂くに当たり、日本における生殖医療の先駆者であり、リーダーであられた当会々長の飯塚理八先生の突然の御逝去に当たり、哀悼の意を述べさせていただきます。

私が非配偶者間体外受精を、日本産科婦人科学会の会告に反し施行、その事実を今から9年前の平成10年6月6日に公表したと同時に、日本産科婦人科学会は、即、私を会から除名しました。その後、FROMの会の事務総長であられる柳田洋一郎先生のお声掛けの下、この会が誕生したのは今から6年前、平成13年のことでした。その時、無理を通して当会の会長をお願いして以来、様々なご迷惑をお掛けして来た張本人の私にしてみれば、何か私が飯塚先生を殺してしまったのではないかと。そう思うと、悔やまれて仕方がありません。先生の御尽力の下、私は3年前の平成16年2月21日、日本産科婦人科学会に復帰することが出来ました。以来、私は日本産科婦人科学会の一員としての責務を感じ、会の近代化を目指し、ことある度に問題提起をして参りました。私の勝手な思い込みですが、常に生殖医療と前向きなお考えをお持ちであった飯塚先生にしてみれば、日本産科婦人科学会との板挟みに合いながらも、私の行動を容認してくださっていたのではないかとと思われるのです。いずれにしても、昨

年10月の代理出産の公表に関しては、当会の議長であられる遠藤先生を介して御了解を得てはいたものの、飯塚先生のお考えの詳細をお聞き出来ず終いであったことは、残念で仕方がありません。語れば尽きぬものがありますが、先生の御冥福をお祈りしながら、今日の話させていただきます。

I. 新しい生殖医療が公表されると、決まって問題にされること

1. 神の領域を侵す行為

ひとは、自分達が考え及ばないことを、例えば“神の策り”とか、“神隠し”というように、神の領域のこととして、処理してしまう癖があります。かつては、神の祟りと見做されていた日食も、科学の進歩により正に日食であったことが分かり、今や当たり前のこととなっています。人間の生殖も、男と女が性交渉をして成り立つものの、“神の思し召し”と考えられていたわけです。それが精子と卵子が合体して受精が成立、子宮内膜に着床することによって妊娠が成り立ち、やがて出産によって一人の生命が誕生するということが分かるようになり、その結果、その経路はいくらでも人工的にとって代わることが可能となって来ています。しかし24年前の最初の体外受精は試験管ベビーと見做され、一時は“神の領域を侵す行為”としてマスコミをも含む形でバ